

```

10 Content-Type: text/html
11
12 <!DOCTYPE html>
13 (more data)

```

図2.12: レスポンスの例

1行目から10行目までを **HTTP レスポンスヘッダ** と呼ぶ。12行目以降を **HTTP レスポンスボディ** と呼ぶ。たとえば、HTTP リクエストメソッドが GET であれば、HTTP レスポンスボディには HTML 文章そのものが埋め込まれる。

2.4.1 HTTP レスポンス状態コード

HTTP レスポンス状態コード (ステータスコード) とは、HTTP リクエストに対してサーバが処理した結果どうなったかを示す3桁の数値のことである。各コードには、説明句と呼ばれるコードを説明する言葉があわせて用意されている。特によく利用する状態コードを以下に示す。

200 OK: リクエストが成功したことを示す。

403 Forbidden: 認証されていないなどの理由で、サーバがレスポンスの返答を拒否していることを示す。

404 Not Found: リクエストされた URL にリソース (ファイル・プログラム) が発見できないことを示す。

500 Internal Server Error: サーバでリクエストの処理方法わからないことを示す。

WSGI では、図2.8中の31行目で示すように、状態コードと説明句をスペースで連結したものをレスポンスヘッダを作成する関数に渡すことで、指定できる。

レポート課題 2.2.

レスポンス状態コードを3つ調べて、どのような番号でどのような時に返却されるのか報告しなさい。

レポート課題 2.3.

演習で作成しているプログラムに **POST** と **GET** 以外のメソッドでリクエストした場合、どの **HTTP レスポンス状態コード** を返すべきか、説明しなさい。

2.5 掲示板プログラムの作成

図2.8に追加するサンプルコードを図2.13に示す。

```

1 from urllib.parse import parse_qs
2 import os.path

```